

## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	1
基本施策	1	農業の振興	評 価 責 任 者	産業振興課長 山崎 佳之	
単位施策	1	土地基盤の充実			

### 1 施策の概要

基本方針	関係機関と連携しながら、圃場の大区画化や農地の集約化、かんがい排水、草地更新など土地基盤整備を円滑に推進し、地域の収益性の一層の向上を図ります。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	道営事業や公社営事業等の補助事業を活用し、計画的に土地基盤の整備を行ってきたが、小区画で分散化が著しく耕作放棄地の発生に繋がっている。	国営土地改良事業や公社営事業の実施により、土地の区画拡大や土地基盤の整備が進められており、耕作放棄地の発生防止や再生が進められている。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	補助事業等を活用し、耕作放棄地の再生に向けた取り組みが進められているが、耕作放棄地の恐れがある農地は増加傾向にあり、担い手の育成や農地の集積等を進める必要がある。	国営土地改良事業の実施により、農用地の造成、区画整理が計画的に行われており、農地の区画拡大が図られているが、より一層、効率的な圃場管理が行えるよう、換地により集約化を図る必要がある。

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	農業生産額						
	定義等	全農家の農業生産額						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							75億円
	実績値	64億円	71億円	74億円				
指標2	指標名	生乳生産量						
	定義等	全農家の生乳生産量						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							49,000t
	実績値	37,884t	41,251t	44,275t				
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	農業振興地域整備計画管理事業	農務係	400	A	継続/現状維持	A
②	営農用水施設維持管理事業	農地整備係	10,063	A	継続/現状維持	A
③	基幹水利施設管理事業	農地整備係	65,690	A	継続/現状維持	A
④	団体営かんがい排水事業	農地整備係	33,804	A	継続/内容の見直し・変更	A
⑤	水土里情報システム活用事業	農地整備係	664	A	継続/現状維持	A
⑥	国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵地区	農地整備係	16,845	B	継続/現状維持	A
⑦	公用車導入事業	農地整備係	818	A	継続/現状維持	A
⑧	水土里情報システム活用事業	農地係	126	A	継続/現状維持	A
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	農業の生産額の増加を図るためには、生産効率の向上を図る必要があり、区画整理等の土地基盤整備は必要な施策である。
② 有効性	A	計画的な基盤整備により、生産効率の向上が図られており、農業生産額の増加に繋がっていることから本施策は有効である。
③ 効率性	A	土地基盤整備等の各種施策は、国・道・町の負担割合が定められており、事業者、受益者等と協議のうえ、より事業の効率化を図り事業費の削減に努めている。
④ 公平性	A	農業振興上の施策であるが、地域の活性化に繋がる事業であることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	大規模な事業については、受益者へのアンケートを実施しており、その結果等を踏まえて事業計画が樹立されている。また、事業の実施に当たっては、関係機関と十分に協議を行い事業が執り進められている。

### 5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等  
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
国営緊急農地再編整備事業等の実施により、区画整理等の基盤整備が進められている。町の基幹産業である農業の生産効率の向上を図るためには、計画的な土地の基盤整備が必要であり、今後も重要な施策として進める必要がある。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
計画的な土地の基盤整備は、農業の生産効率の向上が図られとともに、農業生産額の増加に繋がっている。今後も、より一層生産性効率化を図るため、換地等による流動化を進め、農地の集積・集約化を進めるため継続して実施する必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	2
基本施策	1	農業の振興	評 価 責 任 者	産業振興課長 山崎 佳之	
単位施策	2	担い手（人・組織）の強化			

### 1 施策の概要

基本方針	担い手（人・組織）の確保にむけて、北オホーツク農業担い手対策協議会を中心とした新規就農支援の強化を図るとともに、協業法人化への取り組み支援の継続と、雇用の拡大を図ります。また、地域を支える家族経営の支援も強化します。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	農家戸数の減少や高齢化が進行する中、本町農業の安定的な発展や地域社会の活性化を図るために、協業法人への取り組み支援等各種支援を行っている。現在、北オホーツク農協担い手対策協議会を中心とした新規就農支援の強化を図っている。	担い手対策協議会の設立により、担い手確保に対する体制強化が図られ、新規就農希望者への各種支援が行われている。また、新規就農者の受入れに必要な研修牧場の整備に向け、JA出資型生産法人の設立に対し出資を行っている。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	後継者はもとより他分野からの新規参入者の受け入れ、町外からの人材確保など、意欲と能力のある多様な人材を育成・確保し、生産性の高い経営基盤の確立に向けた取り組みを進める必要がある。	関係機関との連携により、研修生2組に対し就農支援を実施したが、新規就農へは至っていない。令和3年度にJA出資型生産法人が稼働することから、新規就農者の受入れに向けた体制強化を図ることが必要である。

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	農家戸数（生乳出荷）						
	定義等	搾乳農家戸数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							44戸
	実績値	53戸	48戸	47戸				
指標2	指標名	新規就農戸数						
	定義等	新規就農戸数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							2戸
	実績値	0戸	0戸	0戸				
指標3	指標名	農業生産法人数						
	定義等	農業生産法人数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							11法人
	実績値	6法人	12法人	12法人				
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	利子補給補助事業	農務係	856	A	継続/現状維持	A
②	酪農ヘルパー制度強化推進事業	農務係	4,600	B	継続/現状維持	B
③	新規就農者支援事業	農務係	7,236	A	継続/現状維持	A
④	農業経営改善等対策事業	農務係	10,383	A	継続/現状維持	A
⑤	農業生産規模拡大促進事業	農務係	25,149	A	継続/現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	担い手育成強化の施策は、搾乳農家戸数の維持及び農業生産額の増大に繋がるものであり、町の基幹産業である農業の振興を図るうえで必要な施策である。
② 有効性	B	本施策により、作業の効率化や農家負担の軽減が図られ、生産性の高い経営基盤の確立が図られているが、担い手不足の解消や新規就農に至っていない。
③ 効率性	A	本施策の実施にあっては、道と町の負担割合が定められているものや、受益者負担が決められているものがあり、施策目的に沿って効率的に事業が進められている。
④ 公平性	A	受益者は農家に限られるが、各施策の実施は農業経営基盤の安定を図り、本町の基幹産業である農業の振興上必要な施策であることから、町民の理解が得られるものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	担い手育成のための施策は、関係機関と協議を行い意見を反映している。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
農業経営改善対策事業及び農業生産規模拡大促進事業等の実施により、運営資金の負担軽減が図られ、経営環境の改善が図られていることから、今後も必要不可欠な施策事業である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
新規就農への意欲高揚を図るためには、農業経営基盤の安定化・作業の効率化・農家の負担軽減を進めることが必要であり、今後も継続して実施する必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感	整理番号	3
基本施策	1	農業の振興	評価 責任者	産業振興課長 山崎 佳之
単位施策	3	生産技術の向上		

1 施策の概要

基本方針	酪農経営における適切な飼料給与や植生改善、飼養管理技術の向上、優良後継牛の確保など、既存の地域課題や、メガファーム化により生じる新たな課題に対する研究を進めるとともに、新技術の普及を図る取り組みを関係機関と連携しながら進めます。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	牧草やデントコーンの生息状況調査や突発的な気象災害等に対する被害調査を関係機関と連携しながら実施し、また、営農指導等の意見交換、情報共有を行い、飼養管理技術の改善や営農指導の徹底を図っている。	牧草やデントコーンの生息状況調査や突発的な気象災害等に対する被害調査を関係機関と連携しながら実施し、また、営農指導等の意見交換、情報共有を進め飼養管理技術の改善に努めている。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	地域の課題に対する研究や開発された新技術の生産現場への普及を速やかに図る体制を整備する必要がある。また、自給飼料確保のための植生改善や優良雌牛の確保により効率的な生乳生産に努める必要がある。	地域の課題に対する研究や開発された新技術の生産現場への普及を速やかに図る体制を整備する必要がある。また、近年設立された協業法人等について、安定経営が図れるよう支援を行っていく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	畜産指導者育成事業	農務係	0	B	継続/現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	専門知識の習得、生産技術の向上及び情報の共有は、農業の振興を図るうえで必要な施策である。
② 有効性	A	現状の課題に対する対応策について、関係機関と協議を行い農家に還元することで生産技術の向上が図られていることから、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。
④ 公平性	A	本施策により検討された課題等における対応策は、農家全てに還元されるものであり、農業経営基盤の安定を図り、農業の振興上必要な施策であることから、町民の理解が得られるものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係機関との協議等により、生産技術の向上等に関する施策に反映している。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各関係機関が保有している各種情報等について共有することにより、現状の課題に対する対応策等の協議が進められ、生産技術の向上に繋がっている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
飼養技術・生産技術の向上は、地域農業経営の安定化を図る上でも必要不可欠である。農業経営基盤の安定を図るためには、今後もスマート農業技術などの最先端技術の調査、研究を継続して進める必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止



## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	4
基本施策	1	農業の振興	評価	産業振興課長 山崎 佳之	
単位施策	4	安全・安心な農業の振興	責任者		

### 1 施策の概要

基本方針	家畜排せつ物の適正処理とバイオガスのエネルギー利用の推進、畑作での土壌浸食防止対策や化学肥料低減対策の促進など、安全・安心な農業の振興に努めます。				
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）			
	持続可能な農業を展開するために、環境へ十分な配慮をしながら、家畜排せつ物の有効利用を図っている。	持続可能な循環型農業が展開されており、環境に十分な配慮をしながら、家畜排せつ物の有効利用が図られている。また、畑作においては、緑肥の作付け等が行われており、化学肥料の低減が図られている。			
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）			
	農家規模拡大等により、家畜排せつ物の増加が見込まれるため、その処理について環境に配慮した利用方法の検討が必要となる。また、畑作については環境にやさしい農業の確立のため、化学肥料低減対策を進めることが必要である。	農家規模の拡大、担い手不足、従事者の高齢化の進行など、散布に関する労働力不足等により利用が十分に行われていないことから、バイオガスエネルギーとしての利用について検討を行う必要がある。			

### 2 基本施策指標

指標 1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	環境保全型農業直接支払制度	農務係	17,697	A	継続/現状維持	A
②	雄武地域バイオガス導入検討事業	農務係	3,726	A	継続/内容の見直し・変更	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	本施策の実施により生活環境の保全がなされていることやバイオガス導入に向けた検討は、労働力不足の解消やさらなる環境保全に繋がることから必要な施策である。
② 有効性	A	本施策により環境対策が図られていることや循環型農業の確立がなされていることから、有効な施策と判断する。
③ 効率性	A	本施策は効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。バイオガスエネルギー利用の検討については、より事業の効率化を図り事業費の削減に努めている。
④ 公平性	A	本施策の実施により生活環境の保全がなされており、町民の理解が得られることから公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係機関や受益農家との協議を行い、各種施策に反映している。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
環境保全型農業直接支払制度の実施により、化学肥料や、化学合成農薬の低減が進み、地球温暖化防止が図られ、環境にやさしい循環型農業の推進が進められている。環境保全を保つ上で引き続き必要な事業である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
今後も引き続き環境保全を継続してして進める必要があり、有効なエネルギー資源である家畜排せつ物の有効利用について合わせて検討を進めることが必要である。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止



## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	5
基本施策	1	農業の振興	評 価 責 任 者	産業振興課長 山崎 佳之	
単位施策	5	農業による地域の活性化			

### 1 施策の概要

基本方針	快適な農村環境づくりを進めるとともに、加工品の研究開発や、学校給食、イベント等を通じた食育・地産地消などにより、地域の活性化につながる農業をめざします。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	畑作転換への試験的な取組みとして韃靼そばの試験栽培が進められていたが、一定の収穫を確保することが実証され、民間企業により本格的な栽培が進められており、生めんの試作等、加工品研究開発等が進められている。	雄武地域地場産品推進協議会において、イベントを開催し、町内で生産された韃靼そば等の販売のほか、施策メニューの開発などが行われている。また、そば打ち体験や親子レクの開催、給食への食材無料提供など食育、地産地消の取組みが進められている。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	地域の活性化に向けた、新たな付加価値を高めた製品の開発や農業を支える共有施設を維持管理するための取組みが必要である。	地域の活性化に向けた、新たな付加価値を高めた製品開発やブランド化への取組みを進めるとともに、地域の関係者が一体となった食育活動を支援し、地産地消の取組みを行うことが必要である。

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	新規就農戸数						
	定義等	新規就農戸数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							2戸
	実績値	0戸	0戸	0戸				
指標2	指標名	農業生産法人数						
	定義等	農業生産法人数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							11法人
	実績値	6法人	12法人	12法人				
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	畜産指導者育成事業	農務係	0	B	継続/現状維持	B
②	中山間地域等直接支払制度	農務係	118,430	A	継続/現状維持	A
③	農畜産物を活用した食品の開発調査推進事業	農務係	0	A	継続/現状維持	A
④	畜産担い手育成総合整備事業（再編整備型事業）	農務係	50,008	A	継続/現状維持	A
⑤	多面的機能支払制度	農務係	17,966	A	継続/現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	農業による地域の活性化を図るためには、雄武産農畜産物のブランド力の底上げ等の取り組みは必要不可欠である。
② 有効性	B	本施策の実施により地域の活性化が図られるので、有効な施策と判断する。
③ 効率性	B	本施策については、構成する事務事業により効率的に進められてはいるが、地産地消等の取り組みを進めることが必要。
④ 公平性	A	雄武産農畜産物のブランド力の底上げ等により、地域の活性化が図られ快適な農村環境づくりを進めるものであり、町民の理解が得られるものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係機関や受益農家との協議を行い、各種施策に反映している。

### 5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等  
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
有機栽培などの実施により、付加価値を高めた農畜産物等の栽培がなされている。今後はブランド力の底上げを行うため、イベント等を通じた普及活動を進めることが必要。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
地域の活性化を図るため、雄武産農畜産物のブランド力の底上げは必要不可欠である。また、地域の共同活動に対する支援を継続し、地域資源の適切な保全を図り、農業・農村が有する多面的機能が適切に発揮できるよう支援を継続することが必要である。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	6
基本施策	2	林業の振興	評価	産業振興課長 山崎 佳之	
単位施策	1	生産体制の強化	責任者		

### 1 施策の概要

基本方針	福利厚生面への支援などによる担い手の確保を図るとともに、資源の循環利用による林業の成長産業化を図るため、森林施策の集約化、林業関連情報の整備、再造林等による適切な更新の確保や間伐等を引き続き実施していきます。森林の循環利用の促進を図るため、木材の生産・搬出に欠かせない路網の整備も併せて実施していきます。また、森林の適正な管理と付加価値向上を図るため、私有林における森林認証「SGEC（PEFC）との相互認証」のさらなる取得を促進し、地域森林の一層のブランド化と住宅や公共施設での地場産材の普及に努めます。					
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）			【現状】（令和元年度末）		
	国内の林業が低迷する中、本町においても素材生産や流通はわずかであったが、地域材の利用・促進に向けた取組みを行っている。また、森林の持つ公益的機能を鑑み、町や森林組合では補助事業を活用しながら、森林経営計画に基づき、造林や下刈、間伐等の森林施策を継続的に実施している。			本町の森林は、伐採適期の森林が増えてきており、引き続き適切な森林育成・保育を推進しながら、森林資源の循環利用を促進するための施策を実施している。また、本町の森林が適正に管理されていることを内外に証明する森林認証の取得を促進させる取組みを行っている。		
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）			【課題】（令和元年度末）		
	本町の森林資源は利用段階を迎えているが、木材を搬出するための路網整備が遅れており、早急な整備が必要となっている。また、本町における素材生産・流通はわずかではあるが、担い手の不足や高齢化による労働力不足等が課題となっている。			本町の森林資源は利用段階を迎えているが、木材を搬出するための路網整備が遅れている。また、森林整備を進めるにあたっては、木材価格の低迷による森林所有者の経営意欲の低下や所有者不明の森林の増加、担い手の不足等が課題となっている。		

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	町有林・私有林の人工造林面積						
	定義等	町有林・私有林の人工造林面積						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							110ha
	実績値		71.82ha	75.82ha				
指標2	指標名	町有林・私有林の除間伐面積						
	定義等	町有林・私有林の除間伐面積						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							240ha
	実績値		102.71ha	218.50ha				
指標3	指標名	森林作業員数						
	定義等	森林作業員数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							14人
	実績値	14人	14人	12人				
指標4	指標名	町有林の素材売払金額						
	定義等	町有林の素材売払金額						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							690万円
	実績値	975万円	956万円	1,772万円				
指標5	指標名	SGEC森林認証取得面積						
	定義等	SGEC森林認証取得面積						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							5,493ha
	実績値	5,293ha	5,404.62ha	5,461.55ha				
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	町有林整備事業	林務係	35,655	A	継続/現状維持	A
②	未来につなぐ森づくり推進事業	林務係	12,216	A	継続/現状維持	A
③	森林認証取得管理事業	林務係	77	A	継続/現状維持	A
④	森林整備推進事業	林務係	1,615	A	継続/現状維持	A
⑤	森林整備担い手対策推進事業	林務係	176	A	継続/現状維持	A
⑥	林業担い手対策事業	林務係	97	A	継続/現状維持	A
⑦	野ねずみ駆除事業	林務係	237	A	継続/現状維持	A
⑧	認証林を育む森づくり促進事業	林務係	2,349	A	継続/現状維持	A
⑨	林地台帳整備事業	林務係	256	B	継続/内容の見直し・変更	A
⑩	森林環境譲与税活用事業	林務係	11,864	B	継続/拡充	A
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	造林、下刈、間伐などの森林施業を計画的に推進するためには、路網の整備など生産体制の強化が不可欠であり、必要な施策である。
② 有効性	A	本施策の生産体制の強化に伴って、森林の社会的価値を高めることや林業の振興につながることから、有効な施策と判断する。
③ 効率性	A	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。
④ 公平性	A	森林が持つ公益的機能の恩恵を誰もが享受しているため、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	林業の生産体制の強化に係る施策は、関係機関との協議等により反映している。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
間伐事業や造林事業を充実させながら、生産体制の強化が図られており、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/拡充	継続/拡充	
適切な森林施業を行うことが、生産体制の強化や環境の保全につながるため、今後においても継続して実施する必要がある。また、森林環境譲与税を活用した新たな町単独事業を創設し、地域の実情に応じた森林整備等を着実に進めていく必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	7
基本施策	2	林業の振興	評 価 責 任 者	産業振興課長 山崎 佳之	
単位施策	2	多面的機能の発揮			

### 1 施策の概要

基本方針	森林の多面的機能を発揮させるため、北の角つきの森の育成などによる上下流の生態系循環の確保や、水源涵養・災害防止につながる治山事業の推進、公共建築物等における木材利用の推進、森林体験の拡大、特用林産物やバイオマスの活用などを進めます。加えて、これらの事業などを推進していくための林業施策に充てられる財源となる森林環境税の動向にも注視していきます。また、農林水産業の均衡ある発展のため、猟友会などの関係団体と連携し、ヒグマ、エゾシカ等の有害鳥獣被害防止の取り組みや、新規狩猟免許取得の支援を推進します。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	土砂の流出防止や水源の涵養など、森林の多面的機能が高度に発揮できるよう、適切な森林整備を進めている。また、さげ等が遡上する幌内川流域の環境保全を図るため、町や漁業団体が主体となって植樹活動を行っている。	地域住民が活用できる身近な自然としての役割を持つ生活環境保全林等の保安林について、森林の多面的機能が高度に発揮できるよう、適切な維持管理を行っている。また、平成31年2月に完成した雄図びあ（図書館）には、積極的に道産材を使用し、木材利用の推進を図っている。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	恒常化しつつあるクマ、シカ等野生動物による被害等により、森林の多面的機能の発揮に支障をきたしており、これらを抑制する効果的な対策が必要となっている。	自然とのふれあいや環境問題への関心が高まっているが、一方では、植樹祭の参加者が減少傾向にあるので、森林の多面的機能を周知しながら、みどりに対する意識高揚を図っていく必要がある。

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	町有林・私有林の人工造林面積						
	定義等	町有林・私有林の人工造林面積						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							110ha
	実績値	107ha	71.82ha	75.82ha				
指標2	指標名	町有林・私有林の除間伐面積						
	定義等	町有林・私有林の除間伐面積						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							240ha
	実績値	221ha	102.71ha	218.50ha				
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							



### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	生活環境保全林維持管理事業	林務係	1,932	A	継続/現状維持	A
②	林道維持管理事業	林務係	5,238	A	継続/現状維持	A
③	みどりと親しむ町民のつどい	林務係	1,115	A	継続/内容の見直し・変更	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	民有林の多面的機能を発揮させるためには、森林整備や適切な維持管理が不可欠であり、必要な施策である。
② 有効性	A	本施策により水源の涵養や環境保全等の多面的機能の発揮が図られるので、有効な施策と判断する。
③ 効率性	A	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。
④ 公平性	A	森林が持つ公益的機能の恩恵を誰もが享受しているため、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	多面的機能の発揮に係る施策は、関係機関との協議等により反映している。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
幌内川流域の環境保全や治山事業（保安林改良）の実施により、森林の多面的機能の発揮が図られており、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
豊富な森林資源を有する本町の山林を適切に維持管理することが、森林の多面的機能の発揮につながるため、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止



## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	8
基本施策	3	水産業の振興	評 価 責 任 者	産業振興課長 山崎 佳之	
単位施策	1	水産資源の保護・増大			

### 1 施策の概要

基本方針	漁協などと連携しながら、貝殻散布や有害生物駆除などによるホタテ漁場の安定化、藻場造成による餌料環境の向上を図り、コンブ、ウニや根付魚類など水産資源の増大を図ります。また、カニ類などの資源管理を徹底するとともに、ホタテ稚貝放流やナマコの増殖試験調査などの取り組みを進めます。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	ホタテ減産被害からの資源量回復に向けた漁場復旧やウニ資源の増大を図るための増殖礁の整備のほか、計画的な資源管理を実施している。また、元稲府漁港を活用したナマコ増殖試験も継続して実施している。	漁場正常化に伴いホタテ資源量は維持・増大しているほか、進捗が進むナマコ増殖試験は拡大の方向で進んでおり、資源量増大の加速化が期待される。一方で、モガニ資源量やサケ回遊量は減少しており、一層の資源管理が必要となっている。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	将来に向けて安定した生産体制を確立するため、試験研究機関とも連携しながら、漁業者自らが行う増殖技術の向上や漁場環境の保全対策及び環境変化に対応した資源管理を継続することが必要である。	海洋環境が変動するなか、広域での適切な漁獲量管理のほか、試験研究機関とも連携しながら、漁業者自らが行う増殖技術の向上や漁場環境の保全に対応した資源管理を継続することが必要である。

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	漁業生産額						
	定義等	年間の漁獲金額						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							70億円
	実績値	48億円	49.2億円	52.7億円				
指標2	指標名	ホタテ生産量						
	定義等	年間のホタテ水揚量						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							18,000 t
	実績値	11,266t	15,132 t	17,569 t				
指標3	指標名	サケ・マス漁獲量						
	定義等	年間のサケ・マス漁獲量						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							2,200 t
	実績値	3,064t	1,169 t	1,243 t				
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	水産環境整備事業	水産係	6,911	A	継続/現状維持	A
②	ほたて漁場貝殻散布事業	水産係	2,000	A	継続/現状維持	A
③	なまこ増養殖事業	水産係	1,000	A	継続/現状維持	A
④	海岸漂着物等処理事業	水産係	0	B	継続/現状維持	A
⑤	ほたて漁場有害生物駆除対策事業	水産係	0	C	継続/拡充	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	つくり育てる漁業を推進し、水産資源の保護・増大を図ることは、漁業生産額の増大につながるものであり、水産業の振興のためには、最重要施策である。
② 有効性	A	構成する事務事業が計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が表れている。
③ 効率性	A	大学・試験研究機関など関係機関との連携のほか、漁業者自らが既存環境や資材等を有効利用し、効率的な事業展開を図っている。
④ 公平性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し、事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれていると判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	水産資源の保護・増大に係る施策は、関係機関や漁業者との協議等により反映している。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
ホタテ・サケの資源増大に向けた取組みや毛ガニ等の資源保護の取組みに加え、主要魚種外の安定生産に向けた事業展開を積極的に実施している。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
「つくり育てる漁業」の推進は、現在の水産業振興の基軸となるものであり、地域経済全体の影響力も大きいことから、水産資源の保護・増大に関する施策が必要であり、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	9
基本施策	3	水産業の振興	評 価 責 任 者	産業振興課長 山崎 佳之	
単位施策	2	経営基盤の強化			

### 1 施策の概要

基本方針	漁協などと連携し、担い手の育成・確保に努めるとともに、制度融資など経営体の経営安定につながる取り組みを進めます。また、国・道と連携しながら、安全で安定した操業と生産性向上にむけ、元稲府、雄武、沢木、幌内の各漁港及び関連施設の整備を進めます。さらに、海難事故防止対策を充実するとともに、遊漁との共存ルールを徹底します。					
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）			【現状】（令和元年度末）		
	水産業全体の経営基盤強化を図るため、各種支援対策を実施しているほか、各漁港におけるそれぞれの機能性に応じた整備を行っている。また、衛生管理型漁港整備が進められており、沢木漁港・元稲府漁港の機能強化に向けた新たな整備計画の認可に向け取り組みが進められている。			水産業全体の経営基盤強化を図るため、各種支援対策を実施しているほか、各漁港におけるそれぞれの機能性に応じた整備を行っている。また、衛生管理の強化や安全操業を目的とした沢木漁港の整備計画は認可され、生産拠点港の増加に伴い生産性の向上が期待できる。		
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）			【課題】（令和元年度末）		
	生産・流通の拠点となる漁港の衛生管理型施設や安全操業のための整備促進が必要である。また、水産加工業においては、水産廃棄物処理に対する取り組みを強化するなど、処理コストの低減・環境保全対策の強化による経営基盤の強化を図る必要がある。			安全操業のための漁港内外の静穏対策や衛生管理施設の充実など、漁港の整備促進が必要である。また、水産加工業においては、水産廃棄物処理に対する取組みを強化するなど、処理コストの低減や環境保全対策の強化による経営基盤の強化を図る必要がある。		

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	漁業生産額						
	定義等	年間の漁獲金額						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							70億円
	実績値	48億円	49.2億円	52.7億円				
指標2	指標名	漁業経営者数（雄武漁協組合員数）						
	定義等	漁業経営者数（雄武漁協組合員数）						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							108人
	実績値	108人	108人	108人				
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	水産物供給基盤機能保全事業	水産係	0	A	継続/現状維持	A
②	幌内地区（幌内漁港）水産生産基盤整備事業	水産係	609	A	継続/現状維持	A
③	沢木地区（沢木漁港）水産流通基盤整備事業	水産係	0	A	継続/現状維持	A
④	漁業近代化資金利子補給事業	水産係	1,639	A	継続/現状維持	A
⑤	漁業経営健全化促進資金利子補給事業	水産係	54	A	継続/現状維持	A
⑥	水産物流通荷さばき施設整備事業	水産係	126,279	A	終了	A
⑦	水産冷蔵施設機器更新事業	水産係	9,489	A	継続/現状維持	A
⑧	貯氷施設整備事業	水産係	365,642	A	終了	A
⑨	水産廃棄物処理料軽減対策事業	水産係	5,666	A	継続/現状維持	A
⑩	水産廃棄物処理緊急改善対策事業資金利子補給事業	水産係	361	A	継続/現状維持	A
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	水産業は、町の基幹産業であり、関連産業への波及効果も大きく、地域経済の活性化を推進するうえで、経営基盤の強化を図ることが必要である。
② 有効性	A	構成する事務事業が計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が表れている。
③ 効率性	A	国・道などの関係機関に対し、漁協や関係者と連携しながら事業優先度に応じたインフラ整備の協議を進めており、効率的な事業推進を図っている。
④ 公平性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し、事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	経営基盤の強化に係る施策は、関係機関や漁業者との協議等により反映している。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
水産業は、町の基幹産業であり、関連産業への波及効果も大きく、その根幹を成す経営基盤の強化を図ることは、地域経済全体の活性化につながるものである。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
地域経済の振興を図るためには、経営基盤の強化施策が必要であり、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感	整理番号	10
基本施策	3	水産業の振興	評価 責任者	産業振興課長 山崎 佳之
単位施策	3	消費・流通対策の拡大		

1 施策の概要

基本方針	漁協のEU・HACCP認証取得にむけた取り組みを促進するなど、水揚げから加工・流通に至る衛生管理や鮮度・品質の保持を地域ぐるみで進め、雄武ブランドの付加価値を高めます。また、効果的な販売戦略を創意・工夫し、消費の拡大につなげます。さらに、消費者に対する理解をさらに深めるために、水揚げや水産加工の見学・体験、漁港でのソフトな取り組みなども展開していきます。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	衛生管理のための取り組みが進められ、雄武ブランドとして秋サケ（メジカ、雄宝）、毛ガニ、ホタテ、コンブ、タコ等が国内市場で高く評価され魚価・製品の価格向上につながっているほか、海外輸出に向けた取り組みが進んでいる。	原魚の鮮度向上に必要となる衛生管理型施設が順次整備されたことにより、水産加工品の一層の品質向上が図られ、海外需要の拡大も期待できる。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	雄武ブランドの更なる付加価値の向上のため、EU・HACCP認証取得も視野に入れ、海外輸出の促進のための衛生管理体制の強化が必要である。	雄武ブランドの更なる付加価値の向上が図られていることから、EU・HACCP認証取得も視野に入れるとともに、海外輸出の促進のための取り組みが必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】水産物供給基盤機能保全事業	水産係	0	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】沢木地区(沢木漁港)水産流通基盤整備事業	水産係	0	A	継続/現状維持	A
③	【再掲】貯氷施設整備事業	水産係	365,642	A	終了	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	水産業は町の基幹産業であり、水産加工業をはじめとした関連産業への波及効果も大きく、地域経済の活性化を推進するうえで、消費・流通対策の拡大を図ることが必要である。
② 有効性	B	構成する事務事業がある程度計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が概ね表れている。
③ 効率性	B	マリンビジョンの推進など、農林水産業及び商工観光関係者が連携し、地域が一体となって取組みを進めており、概ね効率的に進められている。
④ 公平性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し、事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	消費・流通対策の拡大に係る施策は、関係機関や漁業者との協議等により反映している。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
水産業の振興を図るうえで、消費・流通対策は生命線の役割を担っており、雄武ブランドの推進による効果も大きいことから、地域経済全体の活性化につながるものであり、効果的な販売戦略を展開していく必要がある。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
水産業は町の基幹産業の一つであり、水産加工業をはじめとした関連産業への波及効果も大きく、地域経済の振興を図るためには、消費・流通対策の拡大に関する施策が必要であり、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

\* 今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止



第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感	整理番号	11
基本施策	4	商工業の振興	評価責任者	産業振興課長 山崎 佳之
単位施策	1	事業所の体力づくりへの支援		

1 施策の概要

基本方針	商工会等と連携し、町内企業の技術開発や情報化・近代化、環境対策などへの指導や経済的支援を進めるとともに、小規模事業者創業、異業種参入、ソーシャルビジネス化など、多様なビジネス展開を支援していきます。また、ふるさと応援寄付金（ふるさと納税）などによる新たな需要の掘り起こしを一層推進します。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	商業・サービス業は、近隣市などの大型小売店や通信販売などへの流出が一層進んでいる。経営環境が厳しいことから、融資額の上限等を拡充して、経営の安定化を図るための融資制度を展開している。また、生産性向上を目指した機械設備や施設改修等の助成制度の活用が増加している。	商業・サービス業は、近隣市への大型小売店や通信販売などへの流出が一層進んでいる。依然として経営環境は厳しいが、融資制度による支援や創業支援事業も制定している。また、中小企業等振興事業を活用し、生産性向上等を目指した施設改修等が活発化している。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	商業においては、空き店舗等を利用した小規模事業者の創業支援の制度設計が必要であり、製造業においては、地域の他の産業との連携を深め、雄武ブランドとしての付加価値を高める必要がある。	商業においては、町内の商店数が減少している中、いかに町内での購買意欲の向上や空き店舗対策が必要である。また、製造業においては、高品質な製品の堅実な生産と付加価値を向上させ、地場産業として継続・発展させていくことが必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	製造品出荷額等（食料品＋その他）						
	定義等	工業統計による製造品出荷額						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	148億円	133億円	未公表				155億円
指標2	指標名	空き店舗を活用した新規創業者数						
	定義等	空き店舗を活用した新規創業者数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	0件	0件	0件				2件
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	商工業振興事業	商工観光係	10,000	A	継続/現状維持	A
②	中小企業等振興事業	商工観光係	240,133	A	継続/現状維持	A
③	商業活性化推進事業	商工観光係	6,000	A	継続/現状維持	A
④	小規模事業者創業支援事業	商工観光係	5,000	A	継続/現状維持	A
⑤	【再掲】ふるさと応援事業	財政係	42,667	A	継続/拡充	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	中小企業の経営安定を図ることは必須であり、商工業の経営健全化を推進するうえで、必要な施策である。
② 有効性	A	商工業者の活性化が地域全体の活性化につながることから、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。
④ 公平性	A	商工業の活性化が地域全体の活性化につながることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	特に町民の意見を聞く場を設けていないが、関係団体等との協議等により反映している。

### 5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等  
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
現状の経営環境から判断し、商工会や中小企業者等へ継続的な支援をすることによって、一定程度の経営安定化が保たれており、地域の活性化につながっている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
景気動向にもよるが、人口減少等もあり、事業者の経営環境は、今後においても厳しいことが予想されることから、継続していく必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	12
基本施策	4	商工業の振興	評価	産業振興課長 山崎 佳之	
単位施策	2	商店街の活性化と買い物環境づくりの推進	責任者		

### 1 施策の概要

基本方針	日常の食材、日用品等の購入に欠かせない地元商店の振興を図るとともに、商工会と行政が連携し、買い物環境づくり（空き店舗の活用、拠点販売による買い物不便地域の解消など）を推進します。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	高齢化により車での買い物が困難で、日用品の購入に困る町民も少なくないことから、継続して高齢者への御用聞きや宅配事業、更には安否確認等を商工会が実施している。	人口減少と高齢化が進む中、拠点販売事業で買い物環境向上と福祉とコミュニティ機能の充実に取り組んでおり、空き家店舗を利用した高齢者向けのサロンの提供と新規創業を目指した短期チャレンジショップの提供をしている。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	商店街の活性化を図るため、より一層の施策が必要であり、拠点販売事業で、高齢者の利用者数の増員を含め、充実した日用品が購入できるよう満足度を上げることが必要である。	商店街の活性化を図るため、関係機関と連携して地域の拠点における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業や空き店舗活用事業を展開しているが、セーフティネットとしての一層の発展を図ることが必要である。

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	年間商品販売額						
	定義等	地域構造実態調査による年間商品販売額						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							50億円
	実績値	47億円	未公表	未公表				
指標2	指標名	サービス業就業者数						
	定義等	国勢調査等によるサービス業就業者数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							580人
	実績値	572人	未実施	未実施				
指標3	指標名	空き店舗を活用した新規創業者数						
	定義等	空き店舗を活用した新規創業者数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							2件
	実績値	0件	0件	0件				
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	ふるさと夏まつり盆踊り大会補助事業	商工観光係	500	A	継続/現状維持	A
②	地域交流センター管理・清掃業務委託事業	商工観光係	6,348	A	継続/現状維持	A
③	大通り商店街協同組合街灯費補助事業	商工観光係	200	A	継続/現状維持	A
④	地域の拠点における購買・福祉・コミュニティ機能向上事業	商工観光係	12,998	A	継続/現状維持	A
⑤	地域交流センター整備事業	商工観光係	1,375	A	継続/現状維持	A
⑥	空き店舗活用事業	商工観光係	1,000	A	継続/現状維持	A
⑦	勤労者雇用促進事業	商工観光係	2,275	A	継続/現状維持	A
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	町内の商店数が減少する中、地元購買力等を高めるための施策は、住民を支える立場として必要な施策である。
② 有効性	A	構成する事務事業ごとに工夫された活動がなされており、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	構成する事務事業においては、企画立案・自助努力をしながら実施しており、住民ニーズもとらえた中で展開しており、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	広く町民を対象とした事業展開を行っており、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、関係団体で参加者等の声を聴きながら実施しており、町としても情報共有しながら支援を行っている。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
商店街の活性化と買い物環境づくりの推進は、町民が生活していくうえで、重要な環境づくりであることから、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
町民が安心して生活するうえで、商店街の活性化は必要不可欠であり、今後も継続して実施する必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感	整理番号	13
基本施策	4	商工業の振興	評価責任者	産業振興課長 山崎 佳之
単位施策	3	勤労者の就労環境の向上		建設水道課長 田原 慎也

1 施策の概要

基本方針	就労対策における、就労環境の向上や雇用の確保などを関係機関に働きかけていきます。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	<p>通年雇用が確保できない季節労働者を対象に冬期雇用対策を行っている。また、広域的な通年雇用対策も行っている。</p>	<p>雇用情勢については、幾分の改善が見られるが、通年雇用が確保できない季節労働者を対象に冬期雇用対策を行っている。また、広域的な通年雇用対策も行っている。</p>
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	<p>季節労働者の就労環境においては、厳しい状況であり、通年雇用の促進増につながる施策が必要である。また、高齢者や障がい者の雇用、子育て期の就労環境向上等、多様な対策も求められている。</p>	<p>季節労働者の就労環境においては、依然として厳しい状況であり、通年雇用の促進増につながる施策が必要である。また、高齢者や障がい者の雇用、子育て期の就労環境向上等、多様な対策も求められている。</p>

2 基本施策指標

指標1	指標名	建設業就業者数						
	定義等	国勢調査による建設業就業者数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							250人
	実績値	249人	未実施	未実施				
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】勤労者雇用促進事業	商工観光係	2,275	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】町道等除草作業他環境保全事業	土木管理係	7,744	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	通年雇用を促進し、生活基盤の安定化を図るうえで必要な施策である。
② 有効性	B	関係機関との連携により、雇用環境の促進につながっていることから、概ね有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	就労環境の効果の向上に加え、除雪や草刈など、町民の安全性にも効果があることから、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	町民に広く周知した中で実施しており、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、関係機関と連携しながら進めている。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
本施策は一定の効果は上げているが、今後においても社会情勢を見ながら進める必要がある。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
雇用情勢については、引き続き厳しい状況であるため、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止



第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感	整理番号	14
基本施策	5	観光の振興	評価責任者	産業振興課長 山崎 佳之
単位施策	1	雄武観光の売り込み		税財管理課長 藤川 勝利

1 施策の概要

基本方針	観光マスタープランを推進するとともに、近隣市町村、道、旅行会社などと連携しながら、日の出、流氷、海岸、牧歌的景観、神門の滝、イナシバツの滝などの自然、第一次産業の恵みもたらす食を中心に、各種フェアへの参加やSNSなどの情報ツールにより、全道・全国に雄武観光を売り込みます。また、都市部の居住者の好奇心や探究心に応える雄武ならではのストーリーやエピソードを整理し情報発信します。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	道内各イベントを通して関係団体も含め、積極的に特産品をPRしながら売り込みを図り、併せてホームページ等でも情報発信している。また、観光協会でも情報発信やPR活動を行っている。	紋別空港利用助成制度により、大手旅行代理店によるツアーが商品化されているが、近年、旅行者数は減少を続けている状況である。町や観光協会を通して情報発信やPR活動を継続して行っている。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	様々な形で情報発信しているが、観光客の大幅な増加につながっていないため、観光客を呼び込むツアーなどで情報発信を行うとともに、魅力ある観光地づくりを行い観光客増加を目指す必要がある。	様々な情報を発信しているが、観光客の増加につながっていないため、再度、旅行会社と連携を図り、観光客を呼び込むことと、魅力ある観光地づくりに観光協会とも連携を図る必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	年間観光入り込み客数						
	定義等	雄武町における年間観光入り込み客数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							120,000人
実績値	104,000人	89,500人	111,500人					
指標2	指標名	紋別空港利用助成制度による観光客等人数（町内宿泊施設）						
	定義等	年間の紋別空港利用助成制度による観光客等人数（町内宿泊施設）						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							2,200人
実績値	1,980人	1,234人	1,017人					
指標3	指標名	観光イベント参加者数						
	定義等	町内で開催される観光イベントの参加人数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							20,000人
実績値	18,000人	18,000人	20,000人					
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
実績値								
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
実績値								
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
実績値								
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
実績値								

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	ホテル日の出岬施設整備事業	管財係	47,660	A	継続/現状維持	A
②	ホテル日の出岬運営支援事業	管財係	21,058	A	継続/現状維持	A
③	産業観光まつり運営助成事業	商工観光係	3,000	A	継続/現状維持	A
④	観光協会運営助成事業	商工観光係	15,240	A	継続/現状維持	A
⑤	観光PR事業	商工観光係	2,997	A	継続/現状維持	A
⑥	【再掲】雄武町オホーツク紋別空港利用促進助成事業	企画調整係	31,244	B	継続/現状維持	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	雄武町の魅力である自然環境の豊かさや特産品のPRなど、全国に発信するうえで必要な施策である。
② 有効性	A	構成する事務事業により、雄武町のPRが図られていることから、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	構成する事務事業によるイベントの開催やパンフレットの作成等により、広く雄武町のPR活動ができていることから、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	雄武観光の売り込みにより、地域の活性化につながることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係団体や関係機関と連携をしながら進めているとともに、町民やその他利用者等からの意見を反映しながら進めている。

### 5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各媒体での情報発信に努めているところであり、本町の魅力PRをあらゆる事業を通して行っている。雄武観光の売り込みについては、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
観光の売り込みについては、魅力化、認知化、観光客ニーズの分析等、引き続き各種施策の継続が必要であり、より一層の情報発信に努める必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

## 第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感		整理番号	15
基本施策	5	観光の振興	評価	産業振興課長	山崎 佳之
単位施策	2	雄武観光の魅力化	責任者	財務企画課長	横田 和幸

### 1 施策の概要

基本方針	自然鑑賞、農・水産加工などの体験メニューを「ホテル日の出岬のオプション・ツアー」として企画するなど、潜在的な観光資源の発掘・魅力化による滞在型観光の取り組みを展開し、グリーンツーリズム・マリンツーリズムとしてのアクティビティ化をめざします。また、町民の協力を得ながら、集客につながる地域イベントの充実を図るとともに、通年型土産品としての水産加工品やダッタンそば関連商品等の生産増強に努めます。				
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）			
	日の出岬を中心とした観光施設の中で情報を発信したり、秋のイベント「うまいもんまつり」開催等で、雄武の魅力の情報発信を行っている。また、観光協会もフェイスブック等で情報を発信している。	日の出岬を中心とした観光施設の中で情報を発信したり、雄武町観光マスタープラン推進委員会議でも雄武観光について検討を続けている。			
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）			
	雄武の食の魅力を提供できる取り組みや滞在型観光の取組み、さらには既存資源や第1次産業を活かした体験型観光の推進が課題であり、今後、旅行会社と連携して観光客を呼び込むツアーなどを企画して観光客の増加を目指す必要がある。	日の出岬を中心とした観光の振興を図るため、観光協会を中心に以前から課題としている体験型観光の推進と旅行会社と連携して観光客を呼び込むツアー企画など観光客の増加を目指す必要がある。			

### 2 基本施策指標

指標1	指標名	年間観光入り込み客数						
	定義等	雄武町における年間観光入り込み客数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							120,000人
	実績値	104,000人	89,500人	111,500人				
指標2	指標名	紋別空港利用助成制度による観光客等人数（町内宿泊施設）						
	定義等	年間の紋別空港利用助成制度による観光客等人数（町内宿泊施設）						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							2,200人
	実績値	1,980人	1,234人	1,017人				
指標3	指標名	観光イベント参加者数						
	定義等	町内で開催される観光イベントの参加人数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							20,000人
	実績値	18,000人	18,000人	20,000人				
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	観光施設維持管理事業	商工観光係	6,819	A	継続/現状維持	A
②	メモリアル広場等維持管理事業	商工観光係	3,124	A	継続/現状維持	A
③	サンライズ王国運営助成事業	商工観光係	300	B	継続/現状維持	A
④	日の出岬整備事業	商工観光係	324	A	継続/現状維持	A
⑤	【再掲】雄武町オホーツク紋別空港利用促進助成事業	企画調整係	31,244	B	継続/現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	雄武観光の魅力あふれる事業展開を推進するうえで必要な施策である。
② 有効性	A	魅力的な観光拠点のあり方や観光施設の整備計画等観光マスタープラン推進委員会議等で検討されており、雄武観光を推進することは、有効であると判断する。
③ 効率性	A	既存の観光資源を活かした中で、今後魅力的な観光拠点のあり方を検討しており、雄武観光を推進することは、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	地域観光振興に有益的に活用されていることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	多くの町民から意見を聞く場は設けていないが、観光マスタープラン推進委員会との協議等により反映している。

### 5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等  
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
日の出岬を中心に魅力ある観光の事業展開を図っており、観光客増加につなげる施策は、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
各関係機関との連携を強化し町民を巻き込んだ事業展開を図る必要があり、今後においても継続して実施する必要がある。観光協会を中心とした体験型ツアーの企画や旅行会社と連携してツアーなどを企画し、観光客増加を目指す必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	躍動感	整理番号	16
基本施策	5	観光の振興	評価責任者	産業振興課長 山崎 佳之
単位施策	3	おもてなし力の強化		財務企画課長 横田 和幸

1 施策の概要

基本方針	宿泊・物販・飲食の各施設では、きめ細かな心づかい、外国語対応など、おもてなし力の向上を図ります。観光振興の主要な担い手である観光協会、ホテル日の出岬を中心に、観光に携わる人材の育成、組織の強化、広域観光による観光の質を高めます。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	本町に来町する観光客に安心して滞在し、ホテル日の出岬を中心に満足してもらえるよう、観光施設の整備やイベントを通じながら、おもてなしの対応を心がけている。また、情報発信もわかりやすさを意識して対応している。	来町する観光客に安心して滞在し、ホテル日の出岬を中心に満足してもらえるよう、観光施設の整備やイベントを通じながら、おもてなしの対応を心がけている。また、情報発信もわかりやすさを意識して対応しているが、観光振興の主要な担い手である観光協会と連携して進めている。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	オホーツクサイクリング等の定番イベントでは、歓迎ムードが高くおもてなし力が発揮されているが、人による対応や物による表示等で、おもてなし力がやや不足している。	観光協会を中心に観光に携わる人材の育成や組織の強化を図り、外国人に対する対応やおもてなしの向上を図り、観光の質を高める必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	年間観光入り込み客数						
	定義等	雄武町における年間観光入り込み客数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							120,000人
	実績値	104,000人	89,500人	111,500人				
指標2	指標名	紋別空港利用助成制度による観光客等人数（町内宿泊施設）						
	定義等	年間の紋別空港利用助成制度による観光客等人数（町内宿泊施設）						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							2,200人
	実績値	1,980人	1,234人	1,017人				
指標3	指標名	観光イベント参加者数						
	定義等	町内で開催される観光イベントの参加人数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							20,000人
	実績値	18,000人	18,000人	20,000人				
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							



### 3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	オホーツクサイクリング事業	商工観光係	2,927	A	終了	A
②	【再掲】雄武町オホーツク紋別空港利用促進助成事業	企画調整係	31,244	B	継続/現状維持	A
③	【再掲】観光協会運営助成事業	商工観光係	15,240	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

### 4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	観光施設における接客マナー等の向上に留意しており、各種イベント等で参加者や来町者に不愉快な思いをさせないよう意識が定着しており、妥当と判断する。
② 有効性	B	おもてなし力の強化を図ることは、本町の魅力向上につながり、リピーターの確保等の効果も期待できるが、町内全体に浸透しておらず、課題がある。
③ 効率性	A	おもてなし力の強化を図るために、現時点多額の経費を必要とせず、効果的であると判断する。
④ 公平性	A	おもてなし力の強化により観光振興を図ることは、地域の活性化に寄与するものであり、地域経済への波及効果等も期待できることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、イベント開催等において、「おもてなし」を意識した議論が行われており、一定の反映が行われている。

### 5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等  
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
各種イベントを通して接客マナーの向上等のソフト面は一定程度定着されているが、観光に携わる人材の育成や組織の強化につながっていない。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
おもてなし力の強化により、観光振興を図ることは、町の活性化に寄与するものであり、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

\*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止